

発行所
日本赤十字
新労組連合会
(略称「日赤新労」)
東京都港区西新橋3-14-5
Tel・東京434-7080
発行責任者
川島亮介

日赤新労ニュース

綱領
1. われわれは、社会正義に立脚した良識ある労働運動を通じて、われわれの権利を守り、生活の安定と向上をはかる。
2. われわれは、常に暴力と独裁を排し、自由にして明朗なる民主的労働組合としての健全なる発展を期する。
3. われわれは、赤十字の民主化と近代化を促進することによつて、その人道的任務の達成に寄与する。



熱海八丁園 拡大中央委員会会場

12月3日 拡大中央委員会 熱海八丁園

報告

本年度ベースアップについて、前後七回の交渉の結果「十月実施」という一発回答に達したので、如何にこれに対処するかを討議のため、役員、中央委員、並びに単組代表者を招集して拡大中央委員会を開催した。

一般経過報告・川島書記長
ベアについての交渉内容、要望書署名提出、施設長回答反映等について報告し、回答率の低い点について一層の協力を要請した。

調査報告・藤井執行委員
年令並びに勤務年数に基づく給与状況並びに宿日直調査表を作成したことと述べ、今後共行本部の調査報告に積極的に対応するよう協力を求めた。

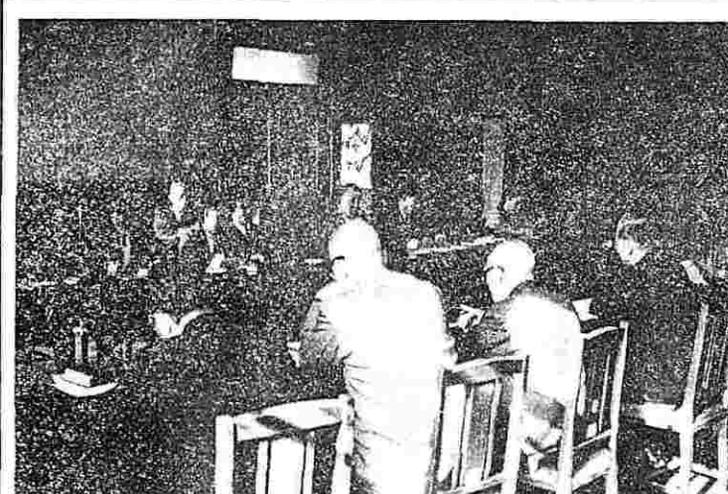
報告に対する質疑応答
(吉原) 各部に對し今後のスケジュールと方針、書記長には、本部に對する各単組報告事項の遅れ或は未提出事項に對する処置に對し、如何なる考えであるか。

調査報告・北村会計委員
催の十一月七日臨時中央委員会開催の際本年度上半期の会計監査を受け、出納状況正確と認められたことを報告し、ベア斗争に関する団交、臨時中央委員会等、短期間に行つたので、財政逼迫を要望したので、会費の早期納入方を要望した。

ベースアップについて
本部報告及び此れに對する質疑応答を終り、愈々本会議の核心であるベア実施に關する討議に入る。

報告に対する質疑応答
(吉原) あまりにも現実論に走りすぎる。前回は、見通しの論議でなく、われわれは、そこまでゆくの努力が大切であり、これが又新労の拡大発展に直結することではないか。

報告に対する質疑応答
(吉原) 吉原氏の御意見は尤もであるが之は理想論であつて、もつと現実的に考へてほしい。しからば十月実施を本社が固執する場合如何に對処するか。又新労はスト権も確立しておらず、例えこれを確立し実行に移す場合果たしてどれだけの単組がついてくるか。全単組参加でなければストは成功しないであらう。



本社団交

七回に及ぶベア交渉も 本社の態度依然頑迷

われわれは常に正しい労働の姿勢を保ち乍ら、誠意と道理を尽くしきき入れないのである。前後七回に渡つて交渉を続けてきたが、本社は財政的理由を盾に、最後まで固執し争わなければならぬ物価高に苦しむ、われわれ労働者の切なる要求を冷徹にも殆んど、おろそかにして来たのである。現在まで行われてきた交渉結果、不利に陥るよう努力するよう申し合はされた。

期末手当について

一方的に本社が出す通達は、事実上決定権を握っており、重大な力となるので、この通達について何等かの手を打つべきであるという見解に達した。又今回の二九割プラス一律二、五〇〇円については各単組それぞれの実情により、有利に獲得するよう努力するよう申し合はされた。

果。本社の回答は大体次の如き内容のものである。

第一回 ベア協議会

●新労の要求は至極もつともであり、時期的なことは云えないが、ベアスタップは実施する。

第二回 ベア団体交渉

●医療費の改定はあつても、その内容及び薬価基準の引き下げ等も絡んでいるので、賃上げ後の経営状態が極めてため、実施時期の見通しは立たない。

第三回 ベア団体交渉

●全国院長連盟会議(十月十三日)において十一月実施の空気が大勢であつた。これは薬価の引き下げに伴う経営の逼迫が主因であるが、経営上苦しくとも、昨年の十一月はやむを得ないだろうというところである。

第四回 ベア団体交渉

●ベアに関する上半期試算表の未提出施設が多いため、現在これを督促中であり、集り次第集計し、実施時期を検討したい。尚人事院勧告の五月実施は当然不可能である。

第五回 ベア団体交渉

●昨年の十一月を基準として前進したい考えであるが、実施時期については次回同交に於て回答する(十二月一日)

第六回 ベア団体交渉

●財政的その他から見て無理ではあるが、十月実施に踏み切つた。これは新労の意向を汲んで一杯努力した結果である。

第七回 ベア団体交渉

●回答なし、交渉は決裂。本社側一方的に退場。第七回の同交は小崎委員長激昂し

楽しく過した 第一回婦人会議

福岡支部新労組合



福岡新労婦人部記念撮影

て本社側にきりこんだ。経営者への責任追及と新労の正しい要求、公務員と同時同率の線を強く打ちだした。本社側も黙して語らず、あぐらの果に、「新労とは、これ以上話しあふ必要はない」として退場したのである。

『雑感』

前橋 三木 和夫

去る、十二月三日熱海での拡大中央委員会にオブザーバーとして出席し、会議で受けた感じを簡単に記す。

特に今回は、ベア問題の討議であつたが、全国各地より出席した中央委員並びに各単組代表やオブザーバーの、本社回答・十月実施の

当単組の今年度定期大会に於て、婦人部が全員の承認のもとに、うぶ声をあげました。其の際婦人部だけの会合を開く事に決議されておりましたが、以来今日まで慣れない私生活のことで種々の都合が生じ、待望久しい第一回の婦人部の会議が延びのびになつてしまいました。然し仍く婦人の立場を皆さんが除々に理解しはじめる。遂に十月八日始めて会議が開られる運びになりました。

十月八日福岡市より産院地獄敷へぬける八木山峠にある、某薬品会社の社員保養所に於て、初めて婦人だけの集合会を持つことができました。

四十名程の出席で、何分にも、はじめての企画だけに会の進行も思つたかたが、とまどうことが多かつたのですが、婦人だけの問題を探りあげ、午前午後と別け、意見が活発にだされ、特に有給休暇・生理休暇の問題は託児所の問題等について討議されました。

最後に執行部に対して意見の申し入れを行い散会致しました。今後もこの様な会議を出来るだけふやして戴いて、会員の発言力を養ひ、婦人の生活の向上に幾分でも貢献したいと望んでおります。

本部の婦人部及び全国の各単組の婦人部の方にも、今後共私達のこの会を御助言等、御指導の程を切にお願ひ申し上げます。

尚当日祝電を戴きました本部及び水戸日赤、名古屋第一、大田原日赤に厚く御礼申し上げます。

これから寒さに向います。全国新労の皆さんお体に充分お気をつけて御健闘下さいませようお祈り申し上げます。

福岡支部新労組合 婦人部長 佐藤まゆみ

少なかつたことは大変残念であつた。前進させるべく熱意があるのか疑わしくなる。

又、会議から自分なりに受取つた感じでは、自分達の施設の状態に左右された発言が多く、新労全体として今後どうすべきかを討議されなかつたことは残念だつた。

発言した吉原氏にしても、全国最低の財政状態にある前橋病院の一員であり、日赤のベアが如何に決まらうとも実施困難なことは承知

の上であり、前橋単組としても、今回のベアは、我々にかまわず大々前進させて欲しいとの熱意もある。で、吉原氏の発言で本社との一次回答を呑むか、呑まぬかを討議するのは時期尚早であり、新労としては絶対に呑むべきではないとの意見も当然である。

この会議は、拡大中央委員会であり単組の会議ではないのである。

えられる方もあると思われすが、それ等の事のみで我々が本社との一次回答を呑むならば、一体我々の労の要求をどこまで真剣身があつたのか疑わしくなる。

八月実施出来るか出来ないかは最後の問題であり、本社回答に対しては強い不満の態度を示すべきであらう。

この会議は、拡大中央委員会であり単組の会議ではないのである。



プロフィール

竹田執行委員

眼前の70ミリ大型スタクリンに展開する十代の海軍少年航空隊の特攻出撃前の悲壮な光景。今私とはある映画館の一隅に在る。

「大平洋戦史」私も当時夢多き中学生であつた。戦争中の苦しかった日々を思い出して感概無量に胸のあつくなる思いであつた。現代の人間尊重の時代と違つて、自分の体を飛行機諸共敵艦に突入する事、決して今後も再びあつては行かないし、又正しいとは思えない。残酷そのものだ。然しその中に人間として悠久の大義の為死を選んだというとは、なんとも形容のできない純粋な美しさともうものを感ぜないわけにはいかない。

スタクリンは次々と展開していくその時ふと妙に男の事を思い出した。彼も特攻隊の生き残りの一人だつたなあと。そう云えば常日頃、彼は「俺はもう一度死んでいふんだ。今生きては居るが本当に奇跡としか思えない。だから俺はどんな小さなことでも命をかけてやるんだ」と。

その男、竹田亮正だ。今前橋職員組合の組合長であると同時に本部の執行委員の重責も担つて本部の皆さんお体に充分お気をつけて御健闘下さいませようお祈り申し上げます。

彼にまつた話は涙山ある。先日洗濯場の機械が故障した。さあ困つたのは洗濯のおばさん達だ。彼は機械屋に電話をかけた急ぎで代を少々ではあつたが自分のポケットから出して払つた。それから一月も二月も、そのまま何となく顔をしていた。私は後になつてその話を、おばさん達から聞き取った。聞いたら、病院へ請求していくら少々な額でもとりなさいと。

の調子である。とかくこの世は金の事では、七手八脚、こうゆう人間も又珍らしい。

現在前橋日赤は開院以来のピンチに立たされたまゝだ。この中に於て組合運動を正当に、堂々と押し進める真の勇者は彼だ。彼を先頭に必ずこの難関を突破してくれるものと信じている。

「肝臓よ頑張れ」と叫んでこの稿を結びたい。(吉原)

第七回同交に於て前記の如く同交決裂し、その後の交渉履行を危ぶまれていた本社交渉も、労使双方の交渉により、ようやく、ここに同交再会するに至つた。

当日同交の席上新労は四条件を提示、これが回答を本社に迫つた。本社側は最終結論は十八日に回答するとの事であつたが、本社側同交委員の結論としては新労の条件を、呑む事に一致した。

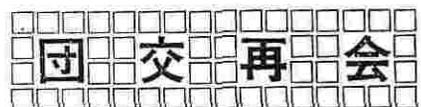
(新労の条件提示)

一、ベア十月以前(全国三十八病院)実施可能施設は年末手当てに於て公務員と同じ八月まで待つて、ベア分を追給すること。

二、十月実施の出来ない財政的困難な施設にあつても、他の施設並みに引き上げること。

三、来年の賃上げは、最悪の場合でも公務員と同じくすること。

四、経営者側は誠意を示し、不審行為は絶対行わないこと。



— 12月16日(土) —